

小学部4年単元1 自分の考えを伝えるには おすすめの場所 【授業実践後の振り返り】 (4時間)

時限	内容	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
1	学習課題をつかむ	めあて おすすめの場所を話し合おう ・ グループで「サイコロゲーム」をする。(サイコロを振って出た面のテーマについて答える。)	・サイコロゲームする時に、「これから、みんなでおすすめの場所についてブレインストーミングをするよ。」と説明をする必要がなく、自然と活動が進行していった。サイコロゲーム中は、クラスに活気があつて良かった。	・先に教師が「先生のお勧めのレストランは～」と例文を言ったために、子ども達はそのアイデアから抜けられなくなり、発想が広がりにくかった。レストランのことばかり発言していたので、教師が先に例文を言うのではなく、始めから子ども達に自由に考えさせれば良かった。	・クラス全体の発話が多かった。 ・リラックスしておしゃべりしたこと、楽しくできていた。
2	学習計画を立てる カードに書く	はじめてダラスに来る友達にはどこがおすすめか考える。 ・ 学習計画を立てワークシートに書く。 ・ おすすめの場所カード（白）、理由カード（黄色）と事例カード（青色）の書き方を知る。 ・ 理由カードと事例カードの例を参考にして、考えたことや経験したことを各カードに書く。	・サイコロゲームで、おすすめの場所についてしっかりと考えたので、色カードを各段階でスラスラと自分の考えが書けていた。 ・ワークシート1の「（自分の考えの中心を）どうやって書くの？」と質問があった時に、囲み枠内の文例（～なら、～がいいと思います。）が役に立った。そこを埋めることはよくできた。	・オレンジと緑のカードを書く時に、「理由」と「事例」が区別できなかった子ども達が多かった。 ・色カードには長い文章を書くのではなく、キーワードや短い文で書くように指導しないと、もともと書く力のある子どもたちは、長い文章で書いてしまう。その時に、「事例」と「理由」が混同してしまうようだった。	・サイコロゲームをグループでした後に、一人一人が自分の考えの中心（～がなら、～がいいと思います）を発表することで、お互いの考えが交流でき、発想の幅が広がったようだ。 ・「事例」の意味がよく理解できずに、戸惑っていたようだ。
	家庭学習課題	● 家庭学習課題の内容を確認 ・ 理由カード・事例カードを見直したり書き足したりする。			・宿題で色カードを書いてきた日本語力に課題がある子どもは、親が書いてくれた文（教えてくれた文）が読めずに、清書の原稿用紙に書けなかった。

3	<p>組み立てを考える 意見文を書く</p>	<p>めあて 読む人が行きたくなるように、自分の考え（意見文）を書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> 理由と、それに関する事例を書いたカードを整理し、組み立てを考える。 P88「たいせつ」P86の作例を参考に、意見文を書くときの組み立てを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語に課題がある子どもたちにとっては、まず色カードにキーワードや短い文を書かせ、次に色カードをもとに構成シートを書き、最後に原稿用紙に清書するのは有効な手段であると思った。 今まで「書く課題」は、授業でさっと説明をして、宿題として「書く課題」を出していた。そうすると、自分一人で書こうとする力がつきにくかった。今回のように、手順を踏んで授業中に「書く課題」まで取り組ませると、自分でしっかりと考え方書こうとして大変効果的だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 色カードを横書き（現地校では毎日横書きのため）で書いていた子ども達が多く、ワークシート1と色カードを活用して文章を組み立てる時に、上手く色カードを並べられないケースも見られた。色カードは「縦書きだよ。」と明確に指示を与えておくと良かった。 <p>↓</p> <p>ワークシートや色カードに縦書きか横書きかがはっきり分かるように罫線を入れると良いと思った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 限られた時間の中で、一生懸命に書こうと原稿用紙に向かう姿が見られた。日本語力に課題がある子ども達も、そうでない子ども達と比べると短めの意見文だが「はじめ一なかおわり」を意識して書けていた。
4	<p>意見文を読み合う 学習を振り返る</p>	<p>めあて 友達や自分の意見文のいいところを見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの意見文を読み合う。 「行ってみたいで賞」「役に立つで賞」「おもしろいで賞」などのカードを各意見文の封筒に入れる。 自分や友達の意見文のよかったですを話し合う。 自分の考えを相手に伝える文章を書くときに、どんな組み立てで書けばよいかを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語力に課題があり自分では思うように書けない子どもでも、意見文を書いて発表出来たのは素晴らしいだった。 一人一人前に立って発表するのではなく、ペアの相手を変えて意見文を読み合ったので、発表会数が増えて良かった。（一人3回） 学習課題の「読む人が行きたくなるように、自分の考えがはっきりと伝わるように書こう。」が達成できたと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの賞の賞状などがあると良かった。 友達の意見文発表を聞いている時に、メモを取れる用紙があると良かった。 特定の子どもたちにだけ賞がかかるまらないように、ペアで読み合って、お互いに何かしらの賞をあげる方法も効果的であると思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 一生懸命書いたものを読んでいた。聞いた方は、「行ってみたいで賞」「役に立つで賞」等の付箋をあげて、感想を言ったり、質問したりしていた。3回ペアを替えていたので、よく練習できたと思う。 子供達の感想は、「ダラズーに行ってみたくなった。なぜなら、キリンに餌をあげられるから。」などがあった。友達の意見文に興味を持って、聞いていたと思う。

◆全体を通しての振り返り

- 他校で授業実践をされた先生方は、1時限の「サイコロゲーム」は省いて、2時限の色カードから行った。「サイコロゲーム」はやったことがないので、取り組み方がイメージできなかったようだ。（合同研究会より）
- 導入の「サイコロゲーム」で子どもたちの興味関心をひけたことは、その後の「書く課題」へのモチベーションへと繋がったと思う。いきなり説明をして書かせるのではなく、導入をしっかりと行うことはとても効果的であった。
- 教科書の「意見文の書き方」説明よりも、こちらの指導活動案の流れの方がとても分かりやすく指導しやすかった。